

## 評価結果

### I. 特徴

1	発達援助 (通し番号 1～13)	地域の実情、子どもの発達状況、保護者の意向を取り入れて保育計画、指導計画が立てられている。保育士は一人一人の子どもの発達の記録をとり、保育の過程については会議で全職員に報告する体制が整っている。特に児童票には細かく子どもの発達の経過が記載されている。基本的な生活習慣の発達援助、指導に工夫がみられ、子どもは発達段階に相応しい生活習慣を身に付けている。
	保育内容 (通し番号 14～24)	食育が充実しており、毎月の「献立表」「ミルクだより」に工夫が見られ、保護者も関心を持って読むことができる。自然に恵まれた環境を取り入れた保育に力を入れている。保育士は子どもを見守りながら、一人一人の子どものニーズに合わせた援助に努めている。
2	子育て支援 (通し番号 25～32)	育児センター「ぞうクラブ」の支援メニューは大変豊かであり、園庭開放、育児相談、親子教室、保育園行事への参加など、積極的に一般家庭に呼びかけている。現在、一時保育のための保育室を建設中であり、次年度より一層充実した保育が可能となる。地域のニーズを的確に把握して子育て支援に努めている。放課後児童クラブにも力を入れており、地域に開かれた児童福祉施設としての役割を果たしている。
3	地域等連携 (通し番号 33～41)	保育園の配布物を地域の関連機関に届けたり、関連機関の配布物をファイル化して保育所職員の共有にするなどして、相互交流を深めることに努めている。保健所や病院との連携を緊密に取り合い、子どもの健康への配慮がなされている。小学生から高校生だけでなく、大学生にも保育体験の機会を保障し、地域の子ども同士の異年齢交流体験を積極的に進めている。
4	運営管理 (通し番号 42～52)	保育所運営に必要な事項については、マニュアル化されており、職員への周知も会議及び文書を通じて徹底されている。園長、主任、保育士及び職員の連携がよく図られ、管理体制が確立している。「岩崎保育園入園のしおり」は詳しく、わかりやすく書かれており、読んだ保護者が安心して子どもを保育所に任せる気持ちにさせるものである。研修体制が整っており、研修成果による保育の向上に努めている。